



TITLE:

表紙・投稿規定・人のうごき・プレプリント・掲示板・編集後記・目次・裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・投稿規定・人のうごき・プレプリント・掲示板・編集後記・目次・裏表紙ほか. 物性研究 1969, 12(2)

ISSUE DATE:

1969-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/87149>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
昭和44年5月20日発行 (毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第12巻 第2号

vol. 12 no. 2

物性研究

1969 | 5

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress**、**Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違しやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**)**x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1. 本誌は、物性物理の研究を共同で促進するため、研究者がその研究意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を速やかに交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、研究に関連した諸問題についての意見、情報などです。
2. 本誌に掲載される論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集者が本誌に掲載することを著しく不適当と認めたものについては、改訂を求め、または掲載を拒絶することがあります。
3. 本誌の掲載論文を他の学術雑誌に引用するときは、著者の承諾を得た上で **private communication** 扱いにして下さい。

投稿規定

1. 雑誌のページ数を節約するため原稿は極力簡潔にお書き下さい。
2. 原稿は400字詰原稿用紙を使用して下さい。
3. 数式、記号の書き方は **Progress**、**Journal** の投稿規定に準じ、ミスプリントが生じないように適当な処置をとって下さい。
上ツキ、下ツキは特に紛わしいもののみを指定して下さい。
英字の大、花文字、ギリシャの指定を忘れないように、**o** と **a** と **0** (ゼロ)、**u** と **n** と **rr**、**c** と **e**、**l** (エル) と **1** (イチ)、**x** と **×** (カケル)、**u** と **v** 等が一番間違しやすい。
4. 数式は3行にわたって大きく書いて下さい。
5. 1行以内におさまらない可能性のある長い数式等は必ず改行の際の切れ目を赤で指定して下さい。
6. 図の縮尺、拡大は致しません。一頁以内に入らない図は原則として著者に返送し、書き改めていただきます。
7. 投稿後の原稿の訂正はできるだけさけるようにして下さい。
8. 別刷が入用な場合は、投稿の際に所要部数を10部単位で申込んで下さい。別紙代は下記方式により、**現金で納入**していただきます。

(郵券による受付はいたしません。)

p : 物研出来上り頁数

x : 別刷所要部数

a : 別刷一頁の代金 1円

b : 製本代(別刷一部につき) 10円

別刷代 = (**a p** + **b**)**x** + 送料

別刷代金は別刷を受取ってから、1ヶ月以内に納めて下さい。

それより遅れた場合には遅滞追徴金を請求されることがありますから、御注意下さい。

9. 原稿締切日は毎月20日で原則として次月発行誌に掲載されます。

1969年4月17日

基 研 研 究 計 画 募 集

京都大学 基礎物理学研究所

所 長 湯 川 秀 樹

昭和44年度、後期の基研研究計画及びアトム型研究員を下記のように募集致します。従来の長期・短期・モレキュール型研究計画の外に、形式・内容共に新しい研究計画の応募も歓迎致します。

又、アトム型研究員は、大学院生を含む一般研究者を対象とし、個人が当研究所に滞在して研究を続けていただくものです。多数の御応募を歓迎致します。

記

1. 応募必要事項（適当な用紙に御記入下さい。）

A) 研究計画（長期、短期、モレキュール型のカテゴリーにとらわれなくても結構です。）

イ) 研究テーマとその内容

（内容については、主旨及び問題点を明確に書いて下さい。）

ロ) 代表者及び研究部員会議での提案説明者

（代表者として主な研究計画参加者を複数あげ、基研研究部員が代表者にいる場合には、原則として研究部員が提案説明にあたって下さい。）

ハ) 研究会等の会合の開催希望時期

ニ) 参加予定者数

ホ) 旅費及び校費の必要額

（項目別に明記して下さい。）

B) アトム型研究員

イ) 氏名、所属、身分、連絡先

ロ) 研究計画（内容をなるべく具体的に御記入下さい。）

ハ) 滞在希望時期及び期間

滞在期間は1ヶ月以上とします。応募者が一時期に殺到し、基研の収容能力をこえる場合は日程の調整をお願いすることもあります。

2. 予 算

いまだ予算は確定していませんが、昨年度の例から考慮しますと、後期分として見込まれるのは次の通りです。

旅 費 200万円 程度

校 費 100万円 程度

3. 締 切

1969年5月31日 必着

4. 選考機関及び時期

基礎物理学研究所 研究部員会議及び運営委員会 6月下旬の予定

5. 宛 先

606 京都市左京区北白川追分町

京都大学 基礎物理学研究所

片 岡 韶 子

基研研究部員会議議題募集

来る6月26日、27日に基研の研究部員会議が行なわれる予定ですので、議題がございましたら提案趣旨とともに、6月5日必着で下記にお申し込み下さい。

京都市左京区北白川追分町

京都大学基礎物理学研究所

研究部員会議議長団

掲 示 板

基研研究部員会議議長選挙開票結果

1969年3月28日

- 開 票 3月28日 基研共同利用事務室
- 有権者総数 55名
- 投票者総数 41名 (3名運記)
- 有効得票数 116 (白票4, 無効投票3)
- 得票順位及び得票数

素粒子・原子核関係

- | | | |
|----|---------|-----|
| ① | 田 中 正 | 22票 |
| ② | 木 下 紀 正 | 9 |
| 次1 | 板 橋 清 己 | 6 |
| 次1 | 山 口 嘉 夫 | 6 |
| 次1 | 末 包 昌 太 | 6 |

物 性 関 係

- | | | |
|----|---------|-----|
| ① | 長 岡 洋 介 | 10票 |
| 次1 | 芳 田 奎 | 9 |
| 次2 | 植 村 泰 忠 | 5 |
| 次3 | 山 下 次 郎 | 4 |

上記のような結果が出ましたので1969年度の研究部員会議議長は、田中正、木下紀正、長岡洋介の3氏にお願いすることになりました。

片 岡 韶 子

大阪大学理学部物理教室物性理論助教授公募

下記により助教授又は講師1名を公募いたします。希望者の応募，または適任者の推薦をお願いいたします。

1 専門分野 — 物性理論

当教室及び周辺における金属，半導体，光物性などの実験研究者が協力を希望しております。

2 提出書類 — 履歴書，論文リスト，主要論文印刷

3 公募締切 — 昭和44年6月20日

4 書類送り先・問い合わせ先

豊中市待兼山1-1

大阪大学理学部物理教室

主任 金森順次郎

日本大学理工学部物理学教室公募

下記により公募をいたします。適任者の推薦，希望者の応募をお願いいたします。

- | | |
|------------------|---|
| 1 公募人員 | 副手または助手 1名 |
| 2 専攻分野 | 統計物理学（理論），とくに量子液体，プラズマの非線型現象，超高密度星を中心とする天体物理学，生物物理学，その他新しい分野の開拓に意欲的な人 |
| 3 資 格 | 大学院修士課程修了以上 |
| 4 提出書類 | 履歴書および研究歴，業績リスト，主要論文の別刷，推薦書（自薦，他薦を問わず） |
| 5 着任時期 | 昭和44年9月以降～45年4月頃まで |
| 6 公募締切 | 昭和44年7月31日 |
| 7 書類送付先および問い合わせ先 | |

東京都千代田区神田駿河台

日本大学理工学部 物理学教室

市川芳彦 または

三沢節夫

Tel. 293 - 3251

人のうごき

- ◎ 蔵本由紀氏（京大・理・物理・D卒，1969年）は，4月1日付で，九大・理・物理・部楽研（固体理）の助手に就任
- ◎ 山田知司氏（京大・理・物理・D卒，1969年）は，4月1日付で九大・工・応用理・辻研の助手に就任
- ◎ 井上政義氏（九大・理・物理・D卒，1969年）は，4月1日付で，鹿児島大・理・物理・助教授に就任
- ◎ 吉森昭夫氏（東大物性研）は，6月23日～26日迄，九大・理・物理で
下記講義の予定
 特別講義「金属磁性の理論」
 特別講演「 $s-d$ 相互作用系の基底状態」
- ◎ 井上通子氏 東大物性研磁気第二部門（守谷研究室）での助手の任期を終えられ，RCA基研（東京）へ転任された。（2月17日）
- ◎ 川畑有郷氏 東大理（久保研究室）より，東大物性研磁気第二部門（守谷研究室）へ助手として着任された。（4月1日付）
- ◎ 山田耕作氏 阪大理（金森研究室）より，東大物性研理論第一部門（芳田研究室）へ助手として着任された。（4月1日付）

Doctor theses 東大理．物理 4 3 年度，物性理論の分

大 島 永 生 Electrical Conduction in Narrow Bands

川 畑 有 郷 Magnetic Resonances and Superconductivity
in Metallic Small Systems

斎 藤 基 彦 弱磁場中の不純物伝導

[東大・久保研]

- Neutron Scattering from K_2NiF_4 : A Two Dimensional Heisenberg Antiferromagnet (R.J.Birgeneau)
- Critical Anomaly of the First Sound in a Bose Liquid above the Phase Transition Point (T.Tsuzuki)
- Microscopic Theory of Phonon-Quasiparticle Interactions in Dilute Solutions of He^3 in Superfluid He^4 (W.F.Saam)
- Positronium Formation in Hydrogen (C.K.Majumdar and A.K.Rajagopal)
- On Magnetic Stability of some Hamiltonians (D.K.Ghosh, C.K.Majumdar and A.K.Rajagopal)
- Lattice Dynamical Aspects of the Antiferroelectric Phase (H.Meister)
- The Pressure Dependence of the Transition Temperature in KDP and ADP* (J.Skalyo, Jr., B.C.Frazer, and G.Shirane)
- Elements of Many Electron Physics (A.K.Rajagopal)

[東北大・工・応物, 桂]

- Non-Equilibrium Nozzle Flow with Condensation (Peter P.Wegener and Jean-Yves Parlange)
- Anisotropy of the surface impedance of superconductors in the sheath regime as evidence for fluctuations of the order parameter (Kazumi Maki, Gaston Fischer and Laboratories RCA Ltd)

- Nonlinear Response in Type-II Superconductors I.
Dirty Limit (Kazumi Maki)
- Nonlinear Response in Type-II Superconductors II.
Pure Limit (Kazumi Maki)
- On the Neel Temperature of a Mixed Crystal Consisting
of Two Kinds of Antiferromagnetic Substances
(Tsutomu Kano and Sasuke Miyazima)
- Ising Lattices with Random Arrangements of Ferromagnetic
and Antiferromagnetic Bonds (Yasuhiro Kasai, Sasuke
Miyazima and Itiro Syozi)
- Two Sets of Critical Exponents for NH_4Cl from Harmonic
Scattering Data. (M. Luban, N. Wiser and A. J. Greenfield)
- Direct Determination of the Critical Exponent γ for
Order-Disorder Phase Transitions (M. Luban, N. Wiser
and A. J. Greenfield)
- Traces of Spin Operator Products and Their Use in
Physical Problems (N. W. Dalton and D. E. Rimmer)

[東北大. 工. 応理, 守田]

- The Electrodynamics and Statistical Mechanics of Linear
Plasma Response Functions (K. I. Golden, G. Kalman)
- Stretch States Expansion in Terms of States with Well
Defined Symmetry Properties (S. Feneuille)
- Angular Momentum Projection Methods: II Application
to the Stretch Scheme (J. Raynal)

[日大. 理工]

- Phase Transition of the Lennard-Jones System
(Jean-Pierre Hansen and Loup Verlet)

プレプリント案内

- Fluctuations of the Single Particle Distribution in Classical Fluids (Peter Ortoleva and Mark Nelkin)
- The Method of the Nonequilibrium Statistical Operator and Its Fields of Application (D.M. Zubarev)
- About Scattering of Wannier's Excitons on Density Fluctuations of Magnetic Induction in Magnetic Dielectrics (E.G. Pettov)
- Asymptotically Exact Calculation of Correlation Functions (N.N. Bogolubov, Jr)
- Correlation Functions for Systems with Four-Fermion Interaction (N.N. Bogolubov, Jr)
- Rotational Energy of the System of Interacting Particles (A.S. Davydov and G.F. Filippov)
- Effective Field Approximations in Classical Liquids (Mark Nelkin)
- Perturbation Theory and Equation of State for Fluids (Dominique Levesque and Loup Verlet)
- Estimation of the Number of Self-Avoiding Lattice Polygons (S.G. Whittington and J.P. Valleau)
- On "Plasma" Mechanism of Superconductivity in Degenerate Semiconductors or Semimetal (E.A. Pashitsky)
- Stochastic Motion of a Relativistic Particle (N.A. Chernikov)
- Electrostatic Instabilities and the Three Adiabatic Invariants of Charged Particles (Günther Otto Spies)
- Solution of the Linear Portion of Dupree's Perturbation Theory for Plasma Turbulence (H. Gratzl)
- Quantum-Mechanical Equation of State of a Hard-Sphere Gas at High Temperature. II* (B. Jancovici)

- Detailed Study of the Electron-Phonon Interaction in Alkali Halides. Part I
The Transport of Electrons with Energies between 25 and 7.5 eV. (J. Llacer and E. L. Garwin)
- Non-linear Instability in Two-dimensional Plasma Configurations (H. Wobig and D. Pfirsch)
- A Class of Exact Solutions for the Vlasov-Turbulence. (Pitter Graff)

[九大. 理. 物理. 物性理論研究室, 森]

- On Scattering of Intense Laser Beams by Free Electrons (F. Ehlotzky)
- Effect of order-parameter fluctuations on the critical exponent β (Levinson, L. M., Luban, M. and Wiser, N.)

[九大理. 物性理論研, 都築]

- on the Eigenvalues of Orbital Angular Momentum (Masuo SUZUKI)
- Non Ergodicity of Phase Functions In Certain Systems (P. Mazur)
- Large Anomaly of the Diamagnetic Susceptibility above the Superconducting Transition Temperature (Kunihiko YAMAJI)

プレプリント案内

- Theory of Hall Effect I. Nearly Free Electron
(Hidetoshi FUKUYAMA, Hiromichi EBISAWA, and
Yasushi WADA)
- Hall Effect in Excitonic Insulator (Hiromichi EBISAWA
and Hidetoshi FUKUYAMA)
- Nonlinear Responses in Type-II Superconductors I.
Dirty Limit* (Kazumi MAKI)
- Nonlinear Responses in Type-II Superconductors II.
Pure Limit* (Kazumi MAKI)

昨年渡米された K. N. 氏のあとを受けて一年足らず，満足な助力もできないままに本誌の編集員をやめることになったのは若干心残りだ。とりわけ前号から本誌が学術論文オンリーでなく，学術研究体制や物性グループのあり方，更には物性物理そのものの反省といった内容をもつ記事を大幅に盛り込んでゆこうと意欲を見せている矢先だけになお更残念である。一時沈滞ムードだった本誌も，こういう方面にこそ今後の発展の道があり，存在意義があると思う。

大学紛争も小休止の時期をすぎて活発化の様相を見せている。物性グループ内でも一度は大造反運動を展開しないと，小手先の民主化運動ではどうにもならぬほど研究体制の根本矛盾は病状が進んでいるのかも知れない。本誌は退廃した物理より創造的物理の味方である。だから創造的物理が種々の研究体制の矛盾からちっ息させられているときは，それらに対する造反の役割を果すだろう。そんな時には政治的中立などあり得ない。本誌が『物性研究』という文字を更に大きな疑問符で包み込むような，そんな性格の雑誌として発展することを期待したい。

(Y. K.)

物 性 研 究

第 1 2 卷第 2 号

1969年5月20日発行

発行人	松 田 博 嗣 京都市左京区北白川 京都大学基礎物理学研究所
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町通室町西入 TFL (京都) 441-1659
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区岡崎徳成町11 有限会社 双 美 社 内

昨年渡米された K. N. 氏のあとを受けて一年足らず，満足な助力もできないままに本誌の編集員をやめることになったのは若干心残りだ。とりわけ前号から本誌が学術論文オンリーでなく，学術研究体制や物性グループのあり方，更には物性物理そのものの反省といった内容をもつ記事を大幅に盛り込んでゆこうと意欲を見せている矢先だけになお更残念である。一時沈滞ムードだった本誌も，こういう方面にこそ今後の発展の道があり，存在意義があると思う。

大学紛争も小休止の時期をすぎて活発化の様相を見せている。物性グループ内でも一度は大造反運動を展開しないと，小手先の民主化運動ではどうにもならぬほど研究体制の根本矛盾は病状が進んでいるのかも知れない。本誌は退廃した物理より創造的物理の味方である。だから創造的物理が種々の研究体制の矛盾からちっ息させられているときは，それらに対する造反の役割を果すだろう。そんな時には政治的中立などあり得ない。本誌が『物性研究』という文字を更に大きな疑問符で包み込むような，そんな性格の雑誌として発展することを期待したい。

(Y. K.)

物 性 研 究

第 1 2 卷第 2 号

1969年5月20日発行

発行人	松 田 博 嗣 京都市左京区北白川 京都大学基礎物理学研究所
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所 京都市上京区上長者町通室町西入 TFL (京都) 441-1659
発行所	物性研究刊行会 京都市左京区岡崎徳成町11 有限会社 双 美 社 内

購読規定

個人購読

1. 会費 当会の会費は前納制をとっています。したがって3月末までになるだけ(1年間分会費を御支払い下さい。なお新規購読の場合は下記の会費以外に入会金として、1000円お支払い下さい。

※ 1年間の会費

1st volume	960円
2nd volume	960円
計	1,920円

(1年分まとめてお支払いが困難の向きは1 volume 分ずつでも結構です。)

2. 支払いの際の注意：なるべく振替用紙を御利用の上御納入下さい。
なお通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。
3. 雑誌購読者以外の代理人が購読料を送金される場合、必ず購読者本人の名前を明記して下さい。
4. 誌代の支払遅滞の場合：当会の原則としては、正当な理由なく2 Vol. 以上の誌代を滞納された場合には、送本を停止することになっていきますので御留意下さい。
5. 一括送本を受ける場合：個人購読中に大学等で一括配布を受けるようになった場合は、必ず「個人購読中止、一括配布希望」の通知をして下さい。逆の場合も同様です。
6. 送本先変更の場合：住所、勤務先の変更等送本先が変わった場合は、必ず送本先変更届を提出して下さい。

学校、研究所等機関購読

1. 会費：学校・研究所等での購読及び個人であっても公費払いのときは機関会員とみなし、代金は、1 Vol.1,800円です。この場合、入会金は不要です。学校、研究所の会費の支払いは後払いでも結構です。しかし購読申込みをされる時に支払いに必要な請求見積、納品書各何通必要なのかをお知らせ下さい。なお、当会の請求書類では支払いができない様でしたら、貴校貴研究機関の請求書類を送付して下さい。
2. 送本中止の場合の連絡：発行途上にある volume の購読途中中止は認められません。購読中止される場合には、1ヶ月前ぐらいに中止時期を明記して「購読中止届」を送付して下さい。

物 性 研 究 12—2 (5月号) 目 次

○ Anderson Model に於ける Kondo effect.....	小口 明秀 ...103
○ 「レオロジーの幾何学的研究」を通しての一方法論の提案.....	池田 恵 ...117
○ 物性物理学の発展 一日本人と自然科学.....	湯朝 俊美 ...138
○ 談 話 室	
「共同利用研究所と地方大学」について.....	堀 淳一 ...142
「東大紛争のなかの教養学部」.....	小出昭一郎 ...145
○ 掲 示 板	150
○ 人のうごき、ニュース.....	154
○ プレプリント案内	156
○ 編 集 後 記	161
○ 基研研究会報告	B1

物 性 研 究 12—2 (5月号) 目 次

○ Anderson Model に於ける Kondo effect.....	小口 明秀 ...103
○ 「レオロジーの幾何学的研究」を通しての一方法論の提案.....	池田 恵 ...117
○ 物性物理学の発展 一日本人と自然科学.....	湯朝 俊美 ...138
○ 談 話 室	
「共同利用研究所と地方大学」について.....	堀 淳一 ...142
「東大紛争のなかの教養学部」.....	小出昭一郎 ...145
○ 掲 示 板	150
○ 人のうごき、ニュース.....	154
○ プレプリント案内	156
○ 編 集 後 記	161
○ 基研研究会報告	B1